
● 第8回大阪国際 室内楽コンクール & フェスタ

門 田 展 弥

第8回大阪国際室内楽コンクール&フェスタ(3年ごと開催)が2014年5月大阪のいずみホールにおいて開かれた。このコンクールは国際音楽コンクール世界連盟会員となっていることでも分かるように、大変レベルの高いものであるが、全体は通常のクラシック音楽コンクールと伝統音楽や民族音楽をも審査対象とするフェスタという二つの柱から成り立っている。フェスタの存在が、このコンクールを大いに特色あるものに行っていることは事実であるが、一方では一種の混乱をもたらしているようにも思われる。実際、今回のフェスタでは、正に前代未聞と言うべき事態が起こった。そのことについては後述することとし、先ずは全体の結果をご紹介します。

第1部門〔弦楽四重奏〕第1位：アルカディア・クアルテット(ルーマニア)、第2位：カヴァレリ・クアルテット(イギリス)、第3位：ヴァスムート・クアルテット(アメリカ)。

第2部門〔ピアノ三重奏またはピアノ四重奏〕第1位：トリオ・ラファール(スイス)、第2位：ノトス・クアルテット(ドイツ)、第3位：トリオ・アタナソフ(フランス)。

フェスタ〔2～6人編成のアンサンブル、伝統・民族楽器も可〕メニュールイン金賞：ダス・クライネ・ヴィーン・トリオ(オーストリア)、銀賞：カリヨン(デンマーク)、銅賞：打楽器集団「男群」(日本)、フォークロア特別賞：トリオ・バラフレーズ(ロシア)。

第1部門はいつも通り弦楽四重奏であるが、今回第2部門はピアノ三重奏とピアノ四重奏が対象となった。前回の第2部門はレパートリーの非常に限られた管楽器のアンサンブルであったため、第1部門に比べると随分芸術的妙味の乏しいものであった。が、今回はレパートリーが広く名作も多い前記二つの形態が対象であったため、技術的側面だけでなく音楽作りのアイデアやオリジナリティーが大いに結果を左右したと思われる。いっそのこと第2部門はピアノ三重奏に固定してもよいのではなかろうか?管楽器を含むアンサンブルはフェスタの対象とし、逆にフェスタから第1、第2部門の編成を除外すれば重複もなくなる。フェスタの存在意義もより明確になるであろう。

さて、弦楽四重奏で第1位の栄冠に輝いたルーマニアのアルカディア・クアルテットの演奏はまことに見事なものであった。僅差のハイレベルなたたかひの中にあっても、他のグループから一歩も二歩も先を行く演奏であった。技術的にも音楽的にも第1位という結果に異論を挟む余地はまったくない。2009年ハンブルグ国際室内楽コンクールや2012年ロンドン国際弦楽四重奏コンクール等で優勝したという実績を証明する名演を披露した。

第2部門は接戦、激戦であった。審査員の評価も全員が一致するようなものではなく、かなり意見が分かれたのではないかと推測される。第1位のトリオ・ラファールは何と言ってもピアニスト、マキ・ヴィーダーケアーが秀逸であった。筆者は第3位のトリオ・アタナソフを高く評価する。特にチェロのサラ・スルタンの叙情味溢れる演奏は深く印象に残った。第2位には

トリオではなくクアルテットが入ったが、ヴィオラ1台が加わることによるアンサンブル全体への影響は軽微ではなく、ピアノの役割もトリオとは相当程度異なる。両者が同じ土俵で優劣を競わなければならないという事情はコンクールの運営上やむを得ないことではあろうが、演奏者には些か気の毒な気もする。

次に今回問題の浮上したフェスタであるが、前述のごとく、メニュールイン金賞を受賞した2台のヴァイオリンとピアノによるダス・クライネ・ヴィーン・トリオのステージは正に「コミック・ショー」としか言いようのないものであった。技術的にも音楽的にも優れた力量を持っていないが、故意に間違えて笑いをとるといった類のパフォーマンスである。ただ、このような寄席芸のようなものが出てくることは、予見できなかったわけでもない。前第7回の折り、同じくこの欄で、フェスタにおいては順位を付けなくてもよいのではないかと提言した。それは、一つには、このような「客受け」をねらったものが頻出するのではないかと危惧したからである。一般審査員(聴衆)の投票によって受賞者を決めるという方式であれば、このようなグループが登場することは十分予想できた筈である。

とはいえ、事前に演奏以外の部分までチェックすることは不可能である。ならば、演奏以外のパフォーマンスを禁止するか、審査を一般聴衆ではなく音楽の専門家に委ねるといったの對抗策は今後検討されてもよからう。

さらに、今回のフェスタでは伝統・民族楽器を用いるものが少なく、結果的にフェスタが第1・第2部門以外の編成を対象とする言わば第3部門の役割を担っているかのようであった。伝統音楽や民族音楽と西洋クラシックを同列に並べ、優劣を付けるということに、いずれのサイドの音楽家も違和感を持ち始めたのではなかろうか?